

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「枕草子 〴〵つくしきもの」 問題①

うつくしきもの。瓜に<sup>①</sup>かき<sup>ア</sup>たる児の顔。すずめの子の、ねず鳴き<sup>②</sup>するに<sup>③</sup>踊り来る。

二つ三つばかり<sup>イ</sup>なる児の、<sup>④</sup>急ぎて<sup>⑤</sup>這ひくる道に、いと小さき塵の<sup>⑥</sup>あり<sup>ッ</sup>けるを目ぎとに

<sup>⑦</sup>見つけて、いとをかしげなる指に<sup>⑧</sup>とらへて、大人などに<sup>⑨</sup>見せ<sup>エ</sup>たる、いとうつくし。

頭は尼そぎ<sup>オ</sup>なる児の、目に髪<sup>⑩</sup>の覆<sup>ヘ</sup>へ<sup>カ</sup>るを<sup>⑪</sup>かきは<sup>⑫</sup>やらで、<sup>⑬</sup>うちかたぶきてものなど

<sup>⑭</sup>見<sup>キ</sup>たるも、いとうつくし。

大きなは<sup>⑮</sup>あら<sup>ク</sup>ぬ殿上童の、<sup>⑯</sup>装束きたて<sup>ケ</sup>られて<sup>⑰</sup>ありくもうつくし。をかしげなる児の、

あからさまに<sup>⑱</sup>いだきて<sup>⑲</sup>遊ばし<sup>⑳</sup>うつくしむほどに、<sup>㉑</sup>かいつきて<sup>㉒</sup>寝<sup>コ</sup>たる、いとらうたし。

雛の調度。蓮の浮葉のいとちひさきを、池より<sup>㉔</sup>取りあげ<sup>サ</sup>たる。葵のいとちひさき。なにも

なにも、ちひさきものはみなうつくし。いみじう白く<sup>㉕</sup>肥<sup>シ</sup>え<sup>シ</sup>たる児の二つばかり<sup>ス</sup>なるが、

二藍の薄物など、衣長にてたすき<sup>㉖</sup>結ひ<sup>セ</sup>たるが<sup>㉗</sup>はひ出で<sup>ッ</sup>たるも、また短きが袖がちなる

<sup>㉘</sup>着て<sup>㉙</sup>ありくもみなうつくし。八つ、九つ、十ばかりなどの男児の、声はをさなげにて

書<sup>㉚</sup>読み<sup>タ</sup>たる、いとうつくし。

鶏の雛の、足高に、白うをかしげに、衣短なるさま<sup>㉛</sup>して、ひよひよとかしかましよう<sup>㉜</sup>鳴きて、

人のしりさきに<sup>㉝</sup>立ちて<sup>㉞</sup>ありくもをかし。また親の、ともに<sup>㉟</sup>連れて<sup>㊱</sup>立ちて<sup>㊲</sup>走るも、みな

うつくし。雁の子。瑠璃の壺。

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞）「枕草子 〴〵つくしきもの」 解答①

うつくしきもの。瓜に<sup>①</sup>かき<sup>ア</sup>たる児の顔。すずめの子の、ねず鳴き<sup>②</sup>するに<sup>③</sup>踊り来る。

カ四用 存続

サ変体 カ変体

断定

ガ四用

カ変体

ラ変体 過去

二つ三つばかりゝなる児の、<sup>④</sup>急ぎて<sup>⑤</sup>這ひくる道に、いと小さき塵の<sup>⑥</sup>あり<sup>ウ</sup>けるを目ぎとに

カ下二用

ハ下二用

サ四用 完了

<sup>⑦</sup>見つけて、いとをかしげなる指に<sup>⑧</sup>とらへて、大人などに<sup>⑨</sup>見せ<sup>エ</sup>たる、いとうつくし。

断定

ハ四用 存続

カ四用

ラ四用

カ四用

頭は尼そぎ<sup>オ</sup>なる児の、目に髪<sup>⑩</sup>の覆<sup>ヘ</sup>カ<sup>ル</sup>を<sup>⑪</sup>かきは<sup>⑫</sup>やらで、<sup>⑬</sup>うちかたぶきてものなど

マ上一用 存続

<sup>⑭</sup>見<sup>キ</sup>たるも、いとうつくし。

ラ変体 打消

タ下二用

受身

カ四用

大きなは<sup>⑮</sup>あら<sup>ク</sup>ぬ殿上童の、<sup>⑯</sup>装束きたて<sup>ケ</sup>られて<sup>⑰</sup>あり<sup>ク</sup>もうつくし。をかしげなる児の、

カ四用

サ四用

マ四用

カ四用

ナ下二用 完了

あからさまに<sup>⑱</sup>いだきて<sup>⑲</sup>遊ばし<sup>⑳</sup>うつくしむほどに、<sup>㉑</sup>かいつきて<sup>㉒</sup>寝<sup>ヨ</sup>たる、いとらうたし。

ガ下二用 完了

雛の調度。蓮の浮葉のいとちひさきを、池より<sup>㉓</sup>取りあげ<sup>サ</sup>たる。葵のいとちひさき。なにも

ヤ下二用 存続

断定

なにも、ちひさきものはみなうつくし。いみじう白く<sup>㉔</sup>肥え<sup>シ</sup>たる児の二つばかり<sup>ス</sup>なるが、

ハ四用 存続

ダ下二用

存続

二藍の薄物など、衣長にてたすき<sup>㉕</sup>結ひ<sup>セ</sup>たるが<sup>㉖</sup>はひ出<sup>デ</sup>たるも、また短きが袖がちなる

カ上一用 カ四用

<sup>㉗</sup>着て<sup>㉘</sup>あり<sup>ク</sup>もみなうつくし。八つ、九つ、十ばかりなどの男児の、声はをさなげにて

マ四用 存続

書<sup>㉙</sup>読み<sup>タ</sup>たる、いとうつくし。

サ変体

カ四用

鶏の雛の、足高に、白うをかしげに、衣短なるさま<sup>㉚</sup>して、ひよひよとかしかましう<sup>㉛</sup>鳴きて、

タ四用

カ四用

ラ下二用

ラ四用

人のしりさきに<sup>㉜</sup>立ちて<sup>㉝</sup>あり<sup>ク</sup>もをかし。また親の、ともに<sup>㉞</sup>連れて<sup>㉟</sup>立ちて<sup>㊱</sup>走るも、みな

うつくし。雁の子。瑠璃の壺。